

## 視覚障害者情報提供ネットワークシステム「サピエ」に OHKアナウンサー音訳による 『OHKオリジナル絵本シリーズ』（録音図書）が登録

報道関係各位

岡山放送株式会社（本社：岡山市北区学南町、以下OHK）のオリジナル書籍『OH!くん絵本シリーズ』の音訳版（録音図書）が、このたび岡山県視覚障害者センターを通じて、視覚障害者情報提供ネットワークシステム「サピエ」の「サピエ図書館」に登録され、視覚障害を持つ全国の子どもたちに、広く楽しんでもらえるようになりました。

登録されたのは、OHKが2003年から2005年に出版した「OH!くんの絵本シリーズ」の3冊で、OHKアナウンサーが音訳を担当し、肉声だからこそ得られる読書体験を全国の子どもたちに届けます。

（※音訳とは視覚障害者など文字が読みにくい人のために、音声で情報を提供する活動のこと）

OHKでは、これまで国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の“誰一人取り残さない”基本理念のもと、放送局として”誰一人情報から取り残されない“情報のバリアフリー社会を目標に掲げ活動を続けてきました。

聴覚障害者への情報提供の取り組みとして、1993年から28年間に渡って続けてきた放送活動「手話が語る福祉」に加えて、今年4月からは、フリーペーパー「さりお」を発行する山陽リビングメディア株式会社と共同で、視覚障害などで読書が困難な岡山県内在住の方に向けて定期的に「さりお」を音訳する活動を始めています。

視覚障害者の読書環境は、電子書籍の普及やスマートフォン等のアクセシビリティ支援機能によって、多様な書籍を楽しめるようになりつつあります。しかし、現在の支援技術は機械が読み上げるにとどまっておらず、誤読、読み飛ばしが生じるなど、必ずしも障害者の読書ニーズを満たすものにはなっていない実態があります。また、点字図書や録音図書の全国最大の書誌データベース「サピエ」には、児童書分野の取り扱いが少なく、視覚障害を持つ児童から、絵本の録音図書を望む声が多くあります。

OHKでは、今後もこうした社会の課題と向き合いながら、情報のバリアフリーを推進するとともに、誰もが心豊かに暮らせる社会の実現に貢献してまいります。



OHKは、地球規模の社会課題の解決を目指す「SDGs(Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)」達成に向けた取り組みを推進するため、国連が世界の報道機関に対して協力を呼びかけている「SDGメディア・コンパクト」に加盟しています。